

台湾総統選挙速報

総統選挙は民主進歩党が勝利、三度目の政権交代（2016年1月）

石原忠浩（台湾・政治大学国際関係センター助理研究員）

（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

【摘要】

1月16日に投開票が行なわれた第14回総統選挙は、最大野党民主進歩党の蔡英文主席が過半数を超える得票率を獲得し圧勝した。また同日に行なわれた第9回立法委員選挙でも、民進党が全113議席の過半数を上回る68議席を獲得し勝利した。

民進党が総統、立法委員選挙で同時に勝利するのは史上初、また台湾憲政史上3度目の政権交代となり、初の女性総統が誕生する。新議会は2月に開会し、新総統は5月20日に就任する。

1. 総統選挙の結果

(1) 結果概要と各党の反応

第14回総統副総統選挙は、1月16日に投開票が行われ、民進党の蔡英文・陳建仁ペアが過半数を超える689万4744票（得票率56.12%）を獲得し、中国国民党の朱立倫・王如玄ペア（得票数381万3365、得票率31.04%）親民党の宋楚瑜・徐欣瑩ペア（得票数157万6861、得票率12.84%）に圧勝した。投票率は過去最低の66.27%であった。（表1）

勝利した蔡主席は、国際記者会見を終えた後、数万人が待ちわびる選挙対策本部外の会場に姿を現し「改革の第一歩は、すでに始まった」と題する演説を行なった。同演説で蔡次期総統は、「全ての台湾人民に感謝する。我々は、一緒に台湾民主史上三度目の政権交代を完成させた。我々は台湾を照らし、再び行動を通じて世界に向けて、台湾が民主社会であることを告げることができた」として、民主的に政権交代が完成したことを誇っ

た。

また改革への強い意志を強調し「改革への第一歩はすでに始まっている。我々は互いに支えあい、しっかりと前に進まなければならない。自由、民主、繁栄、公平正義の国家は目前にある。2月1日に新議会が開会するが、民進党は国民に関心のある関連法案を優先的に処理する。改革へのエネルギーは最大限に放ち、改革が生み出す動揺は最小限に抑える」と述べた。

今後推進する政策に関し、介護、住宅、年金、産業など民生イシューのほか、国際世論の関心が高い兩岸関係につき、「台湾海峡の安全、兩岸関係の平和と安定を維持することは皆の期待であり、兩岸当局が一緒に努力すべきことである。現状維持は台湾人民と国際社会に対する承諾であり、自分は必ず有言実行する。兩岸関係を処理する際に、積極的に中国側と意思疎通をはかり、挑発せず、サプライズを起こさない」と兩岸の平和と安定に資する施政を行うことを強調した。

また、理性的な一面を見せる性格を覗かせたのが、勝利に浮かれることのないよう党員に対して「総統当選者、党主席の身分として党関係者に下す最初の命令は、謙虚（中文：謙卑）、謙虚、謙虚であれ」と求めた。最後に「台湾人は藍緑、政党、エスニックを分けずに新時代においてはこの国の改革のために一緒に改革を行なう。これは、蔡英

表1 第14回総統副総統選挙の得票率、投票数

	蔡英文陳建仁ペア	朱立倫王如玄ペア	宋楚瑜徐欣瑩ペア
得票率	56.12%	31.04%	12.84%
得票数	6,894,744	3,813,365	1,576,861

資料元：中央選挙委員会「総統副総統選挙候選人得票数」（2016年1月16日）

http://www.cec.gov.tw/zh_TW/P1/n0000000000000000.html

文の承諾であり、保証である」と強調した。

敗者の弁であるが、朱主席は支持者の前で、敗北と自身の努力不足を認め、支持者の期待に沿えることができなかったことを謝罪するとともに、党主席及び総統候補としての責任をとり党主席の辞任を表明した。

三度目の挑戦も失敗に終わった宋主席は、「今回の選挙は、自由と民主を堅持し、兩岸の平和を永く保つことへの合意、党派間の悪性競争を横に追いやり民生問題を中心に議論したことの三点で大きな意義があった」と述べた。

(2) 馬総統の蔡主席に対する要請

国民党の敗北により、毛治国行政院長は同日夜、馬総統に辞任を申し出た。また行政副院長を含む多くの閣僚も毛院長に続き辞任する意向を示す事態になったことを受け、総統府は「馬総統は議会で多数派を占める政党（民進党）が支持する人物を行政院長に任命したいと希望している。5月20日の政権交代までに政府機能がスムーズに活動を展開し、政務を引き続き行なう必要があり、蔡次期総統

が国家と社会を重視し、総統府で事後につき協議することを望む」とするプレスリリースを発出した。

しかしながら、蔡主席は国際記者会見で、「議会の多数派による組閣は、憲法上の論争があり、憲法修正が必要である」と否定的な立場を述べ事実上の組閣要請には応えない意向を示している。

2. 立法委員選挙の結果

民進党が、重要選挙区と指定していた新北市で大勝したほか、比例代表区でも事前の予測を上回る18議席を奪取し、全体で28議席増の68議席を獲得し、同党にとって初の単独過半数議席獲得となった。一方、国民党は、雲林県以南で全滅したほか、比例代表区もふるわず29議席減の35議席の惨敗に終わった。(表2)

国政選挙初挑戦となった時代力量は小選挙区で3人が当選するなど、計5議席を獲得し第三政党となった。親民党も比例代表区で票を重ね3議席を獲得した。なお、統一派志向の支持獲得を狙った新党、前回3議席を獲得した台湾團結聯盟は得票率5%に達せず議席ゼロに終わった。

表2 第9回立法委員選挙における各政党議席数

	民進党	国民党	時代力量	親民党	無盟	無所属
総計(改選前)	68(40)	35(64)	5(0)	3(3)	1(1)	1(0)
小選挙区	49	20	3	0	0	1
比例区	18	11	2	3	0	0
原住民区	1	4	0	0	1	0

資料元：中央選挙委員会の資料を元に筆者が修正



国際メディア記者会見



支持者を前に勝利宣言の後の蔡英文次期総統